

有限会社丸十トラック運送店の巻

(千葉市美浜区)



2013年に開催が決まった「東京2020オリンピック・パラリンピック」の開催が間近に迫ってきました。千葉県ではオリンピック史上初となるサーフィンを含めた3競技とパラリンピック4競技の合計8競技が予定されており、読者の皆さまも地元開催が待ち遠しいことでしょう。多くのメダルと共に、世界の舞台で日本代表選



▲荒井孝雄社長

手が日頃の成果を發揮し、堂々たるプレーで私たちを魅了してくれることが期待されます。

☆☆☆☆

今シーズンは記録的な暖冬と言われる中、肌を刺すような冷たい空っ風が吹いた2月6日、第77回事業所訪問先として千葉市美浜区の有限会社丸十トラック運送店(荒井孝雄社長)にお邪魔しました。

同社が所在する千葉市美浜区は、オリンピック・パラリンピック競技会場となる幕張メッセや千葉ロッテマリーンズの本拠地であるZOZOマリンスタジアムなどが有名ですが、多くの人で賑わう施設があるだけでなく、公園や緑地などもバランス良く配置されている地域です。今回の訪問先は健保組合の母体である千葉県トラック協

会の会館にほど近い場所にありました。「こんにちは健保組合です!」と事務所を訪ねると、業務ご多忙にもかかわらず、取材を快く引き受けてくださった荒井社長が迎えてくださいました。

地域社会と生活に根付いた事業を展開

丸十トラック運送店は、令和2年2月1日で設立61年目を迎えました。設立当時はタクシース事業、自動車修理工場、ガソリンスタンドなどを経営していたそうです。長年にわたる堅実・確実な姿勢が行政関係者の目にとまり、徐々に行政の業務受託が増えました。それに伴い、設立時の事業を縮小し、主要業務を環境分野にシフトしたとのことです。現在は主に地元自治体から家庭ごみの収集運搬や道路清掃などを受託し、地域の衛生環境の維持に貢献しています。同社は、平成31年4月に公衆衛生の向上と生活環境の保全を目的として積極的に事業を展開している株式会社市川環境ホールディングスに参入し、同時に荒井社長が4代

を傾けているとのこと。心と心が通じ合うことで活発な意見交換が可能となり、日々の業務など改善点が明確になり、その結果、業務の効率アップや個々のモチベーションアップにつながっているそうです。

事故防止対策では、荒井社長が自ら資料を作成し、毎月講習会を開催されているそうです。また、講習会後には班長会議を各部門責任者が担い、万全な体制で事故防



止に取り組んでいます。前述のように同社はゴミの収集を手がけており、業務上最も注意する点は収集車の回転板の巻き込み事故とのこと、作業は必ず二人一組で従事し、万一の事態に備えているそうです。さらに、従業員のスキルアップが会社の成長と捉えられ、大型・中型免許の取得、免許変更の審査(限定解除)、運行管理者資格の取得など、受講費用の助成や研修会への参加といった資格取得に向けた環境づくりなど、サポート体制が充実しています。

長く働ける会社を目指して

また、グループ企業間での人事交流が行われ、お互いのノウハウを共有しているそうです。「個人のスキルアップは生活の安定・安心を生み、従業員が健康で元気に働くことが会社の成長に直結します」と語り、私たちは従業員の生活と健康を第一に考える荒井社長の親心に心を打たれました。

続いて、話題は今後の展望へ。

注目される運転技術の自動化(AI)について伺うと、「事故防止な



目として就任され、グループ全体で環境問題に向き合っています。

個人の能力アップが会社の戦力向上に

人材育成についての秘訣などを伺ったところ、「コミュニケーションをとることです」と即答されました。休憩時間などにも従業員に声をかけ、定期的に個人面談を行って従業員の目標や悩み事にも耳

「仕事し過ぎない!」

「運動し過ぎない!」

「食べ過ぎない!」

「飲み過ぎない!」等

親会社と同社を行き来する多忙な毎日ですが、休日の有意義な過ごし方やバランスのとれた日常生活が荒井社長の健康の源とお見受けしました。「過ぎたるは猶及ばざるが如し」と論語の中の言葉にもありますが、改めて私たちの日々の行動を顧みるきっかけにもなりました。

☆☆☆☆

最後に健保組合へのご意見をお聞きしたところ、保健事業を積極的に活用する上で、「保健事業の分かりやすい案内や新規事業の検討などでは組合員のニーズを取り入れていただきたい」と貴重な意見を頂戴しました。私たちは真摯に受け止め、今後も事業への積極的な参加をお願いし、取材を終えました。

荒井社長をはじめ従業員の皆さま、ご協力ありがとうございました。

丸十トラック運送店の益々の発展を祈念しております。